



図1：遺跡の位置

【遺跡の概要】

平岡西遺跡は岡山市北区御津町平岡西に位置する遺跡である。圃場整備事業に伴い、1988・1989年に発掘調査が行われた。調査の結果、縄文時代～近世にかけての遺構・遺物が確認された。主な遺構として、弥生時代遺構面においては溝と円形の竪穴住居、古代遺構面では方形の竪穴住居、鎌倉時代遺構面では掘立柱建物がある。

特徴的な遺物として、弥生時代の溝からまとまって出土したスタンプ文土器があげられる。スタンプ文には、鳥形文・蛇腹状逆S字形文・三角形文・竹管文があり、鳥形文は平岡西遺跡特有の形状をしている。

スタンプ文を施された弥生土器は現在の鳥取県でよくみられ、土器棺に施文されていることが多い。かつて鳥は神聖なものとしており、三角形を連続して並べた鋸歯文は僻邪を意味している。また、スタンプ文が施された壺は、意図的に底部に孔がつけられ実用できない状態に作られており、平岡西遺跡で出土したスタンプ文土器も葬送儀礼に利用された後、溝に捨てられたと考えられる。

【参考】長谷川一英(1991・1992)『平岡西遺跡Ⅰ・Ⅱ』岡山県御津町教育委員会

図1：岡山県古代吉備文化財センター(2003)『改訂 岡山県遺跡地図 第6分冊 岡山地区

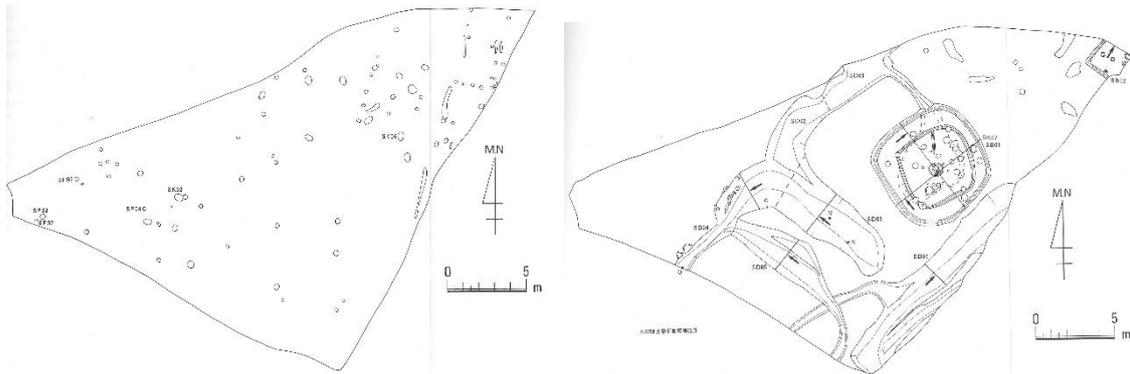


図2：1988年調査の遺構面（左：第1遺構面、右：第2遺構面）

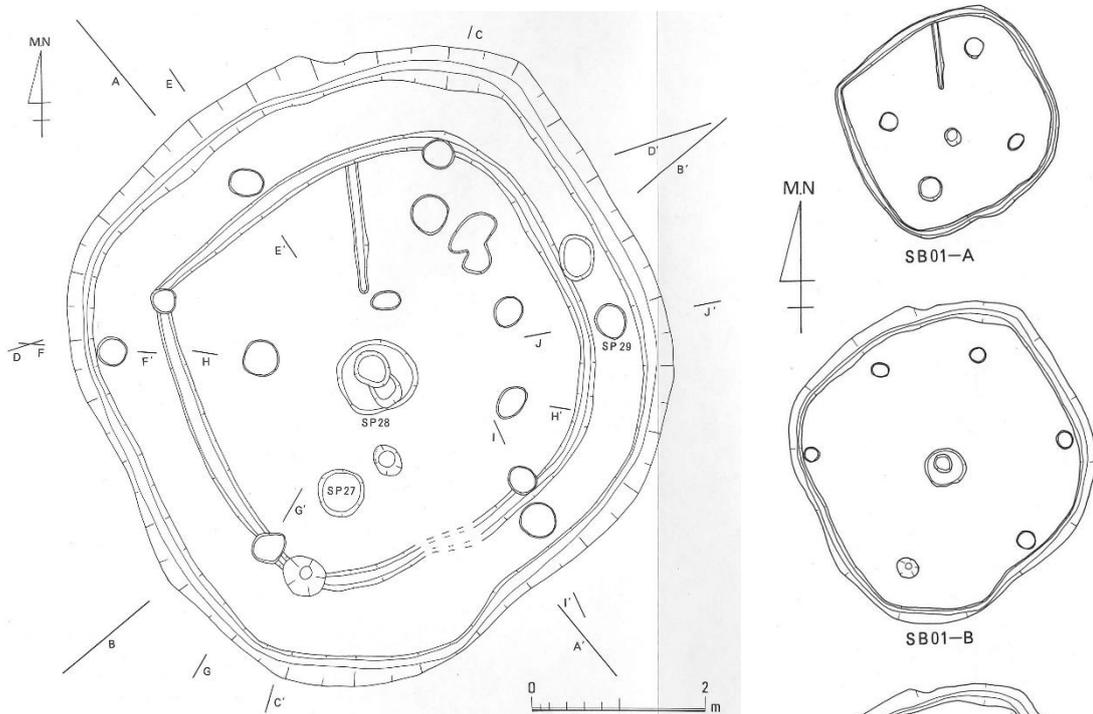


図3：弥生時代の竪穴住居

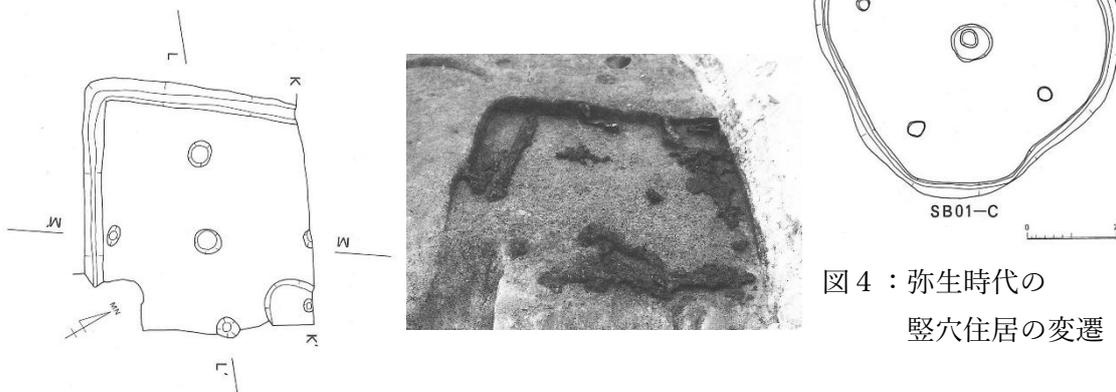


図4：弥生時代の
竪穴住居の変遷

図5・写真1：6世紀前半以前の焼失住居

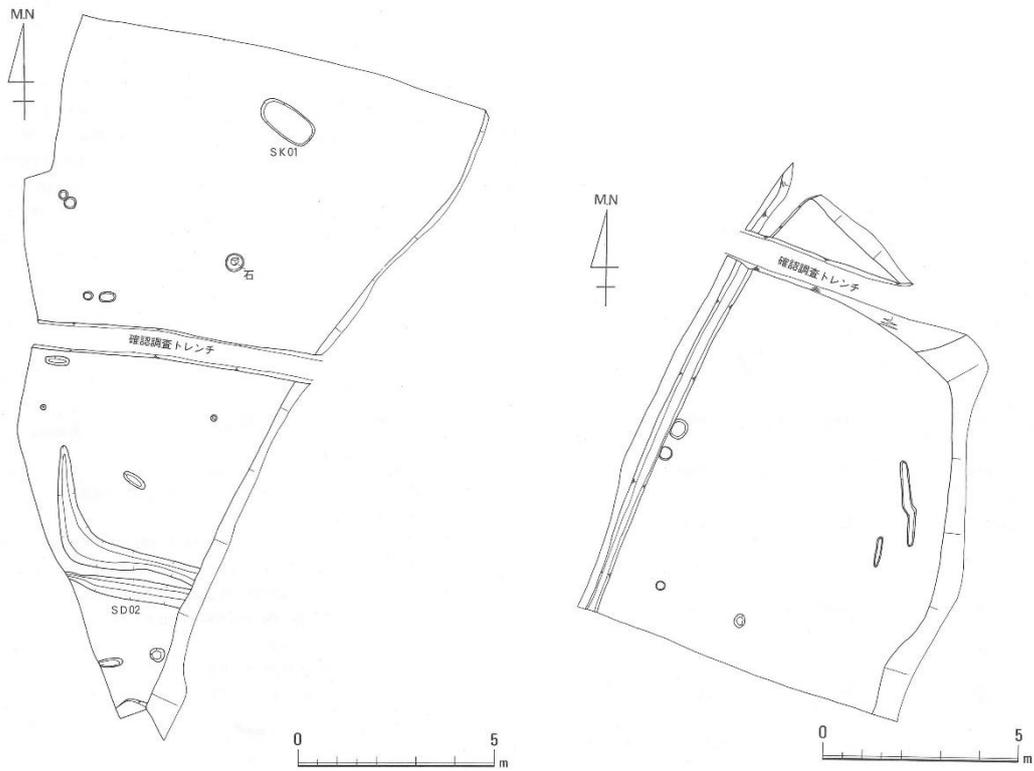


図6：1989年調査の遺構面（左：第1区 第1遺構面、右：第2区 第1遺構面）

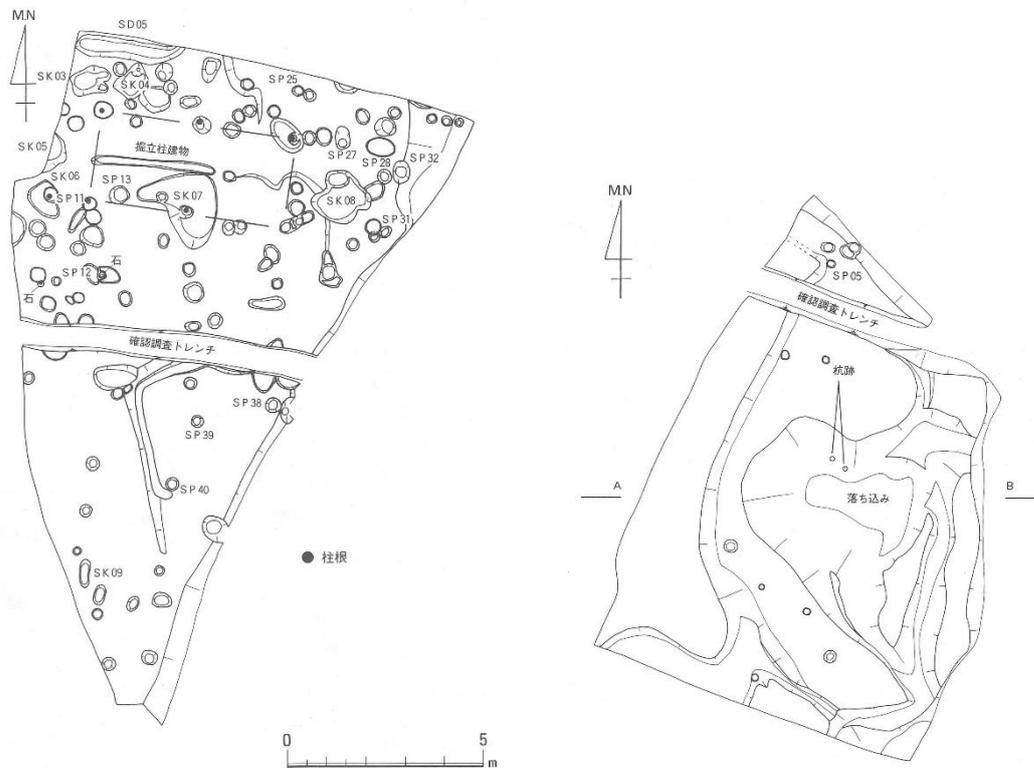


図7：1989年調査の遺構面（左：第1区 第1遺構面、右：第2区 第1遺構面）

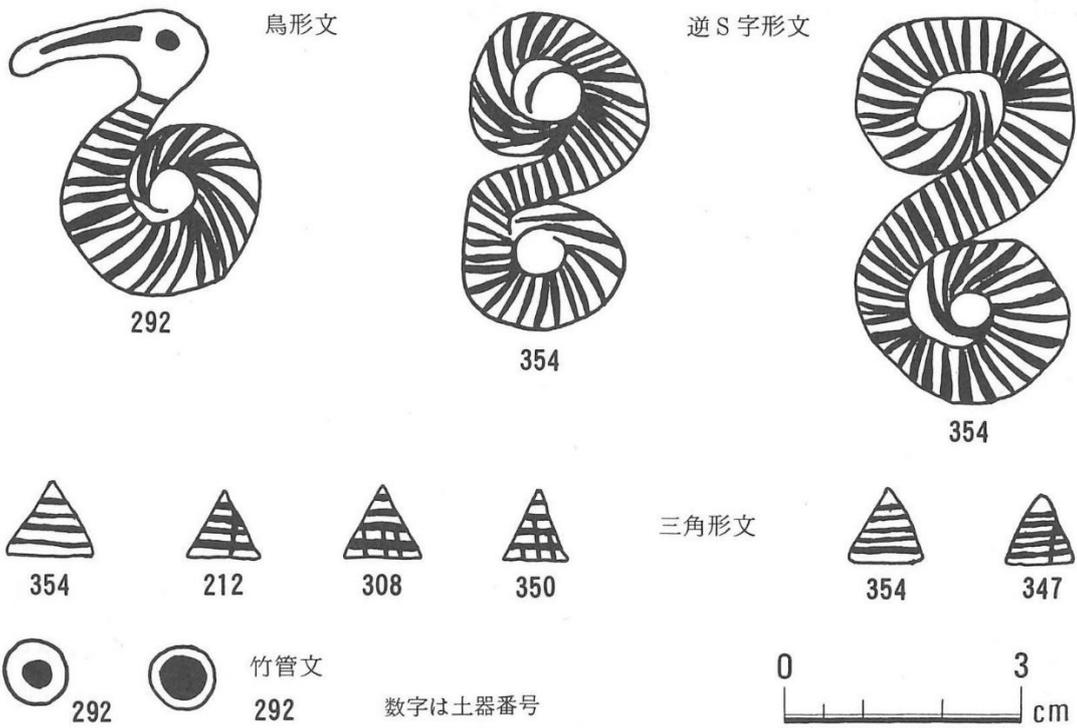


図8：平岡西遺跡のスタンプ文



写真2 (左上)：器台最下段のスタンプ文

写真3 (右)：器台最上段のスタンプ文

写真4 (左下)：直口壺の線刻絵画